

一般公開に寄せて（平成18年度科学技術週間一般公開）

つくば研究機関の科学技術週間における一般公開が去る4月19日(水)開催されました。当日はまずまずの天候のため、出足から好調で昼食時には確保していた駐車場が満杯になる盛況ぶりで最終的には約1,300人程の方が訪れました。

動物衛生研究所は「動物を衛る 人を衛る」をテーマに公開を行い、7つのコーナーを用意して見学者を受け入れました。

「タマゴの中ってどうなっているの?」のコーナーでは、小学生・中学生が照射された卵の中に見える胎児の動き(3種)を興味深そうに覗いては驚きと感嘆の声を上げていました。また、「いろいろな病原体を見てみよう」では並べられた顕微鏡を覗いて初めてみたミクロの病原体に感心しメモを執る様子も見受けられました。

「BESと鳥インフルエンザの謎を追う」では、説明員に専門的な言葉で質問するなどのシーンもみられ、国民的な関心の高さを示していました。

恒例のふれ合いの広場では天候に恵まれたこともあって「ポニー乗馬体験」や「動物のお医者さん体験」では動物とのふれあいを求めてたくさんの子供達が集まりました。聴診器から聞こえる牛やウサギの心音に思わずニンマリと笑顔を見せる子供達が印象的でした。

見学者のアンケートからは、「説明員が親切丁寧であった。わかりやすかった」という感想をいただくとともに、「もっと公開の機会を増やして欲しい」という要望や「1日も早い病気の解明をのぞむ」という声もあり当所への期待度は高いものと思われました。

今般の公開では目で見て触れて楽しむということは達成されたと思われませんが、テーマに掲げた「動物を衛る 人を衛る」という研究へのより深い理解を得るためには更なる努力が必要かと感じました。

(情報広報課)

